

“公害告発劇団”出発

東京から
水俣まで

10都市で巡回公演

公害のない社会を求めて「公害」を巡回する劇団が十四日朝東京を告発劇の公演を続けながら全国一出発した。一行は「東京・水俣病



巡礼スタイルで出発する告発する会の人たち

を告発する会」を中心とする「苦海浄土基金のための行動一座」（砂田明代表）の十三人。東京から水俣までの主要十都市で公演、収益は「苦海浄土基金」として水俣病患者の生活、医療救済基金に充てる。

劇の内容は水俣病のために死んだ患者の霊が集まって「人命軽視」の文明に抗議、現世を人間が安心して暮らせる社会にしなければならぬと訴えるもの。白装束にカサという巡礼スタイルで同日午前八時半東京・丸の内チツソ本社前に集合した一行は出勤してきた同社社員たちにピラを配ったあと社長に面会を求めたが不在のため総務部次長に会い、今回の公演旅行の説明をした。このあと霞が関の厚生省までデモ、国が公害病患者の認定基準のわくを広げるよう訴え、同省玄関前から最初の公演地名古屋に向けマイクロバスで出発した。